

令和 6 年度授与式挨拶（受賞者と選考過程の報告）

公益信託 臨床検査医学研究振興基金 運営委員会委員長 高木 康

皆さまこんにちは。公益信託臨床検査医学研究振興基金の運営委員長を拝命しております高木康と申します。新型コロナウイルスの世界的なパンデミックによる自粛を経て、昨年度から本基金の授賞式と記念講演を開催しております。依然として新型コロナ感染症による死亡者も多数であり、本会も感染予防に十分注意して開催することといたしました。

最初に、当基金の概要についてご紹介させていただき、そのあとで、今年度の選考経過についてご説明申し上げます。

「公益信託 臨床検査医学研究振興基金」は、今年度で設立 37 年を迎えることになりました。ここまで当基金が存続・発展することが出来たのも、関係の皆様方のご支援・ご協力の賜であり、運営委員長として、心から御礼を申し上げる次第であります。とりわけ、富士レビオ株式会社、ならびに株式会社エスアールエルには、一貫して多額の基金と寄付金のご支援をいただき、深く感謝申し上げます。また、受託者として、基金の管理運営をしていただいています、みずほ信託銀行株式会社にも厚く御礼を申し上げます。本日はこの基金の設立者のお一人である自治医科大学名誉教授河合忠先生にご臨席いただいております、光栄に存じております。

当基金は、臨床検査医学・臨床病理学分野における学術振興と人材育成への貢献を目的として、昭和 56（1981）年に設立された『臨床病理学研究振興会』が母体となっております。その後、昭和 63（1988）年 12 月に『公益信託 臨床病理学研究振興基金』として厚生省（現 厚生労働省）より認可され、それから数えて今年で 37 年目を迎えることとなります。平成 15（2003）年からは、名称を、『公益信託 臨床検査医学研究振興基金』に変更し現在に至っております。

当基金の設立の趣旨は、臨床病理学・臨床検査医学の分野において、学術的貢献の期待が大きいと認められる若手研究者に研究奨励金を贈り、研究を遂行することで優れた臨床検査に関係する研究者を育成しようとするものであります。発足当時は、臨床病理学領域の科学研究費などの分配金は少なく、若手研究者の研究費も乏しかったので、本基金を助成して研究者を育成することが主な目的でありました。現在でも発足当初からのこの目的を継承しております。

現在、当基金は、正味信託財産約 2 億 6 千万円を所有していますが、混沌とする世界の経済情勢の中で、相変わらずの超低金利時代で十分な利息が得られず、年々基金を取り崩しながら苦しい運営を強いられております。このため、運営費用をできるだけ切り詰め、また毎年、富士レビオ株式会社ならびに株式会社エスアールエルさまから多額の寄付金を積み増していただきながら、研究助成事業と顕彰事業は例年の予算額を維持するように努力してきております。その結果、昭和 56（1981）年度から今日までの研究奨励金の授与は、349 件、総額 2 億 5,410

万円に達しております。

研究奨励事業に加えて、平成 2（1990）年度には「小酒井 望賞」を、平成 15（2003）年度には「藤田 光一郎賞」を顕彰事業として創設・開始いたしました。

「小酒井 望賞」は、順天堂大学臨床検査医学講座（当時は臨床病理学講座）の初代教授で、我が国の臨床病理学・臨床検査医学の発展のために大きな足跡を残されました、故小酒井 望先生のご遺徳を偲ぶために設けられた賞であります。小酒井先生は、また当基金の初代の信託管理人として、当基金の設立にも大きな貢献をなされました。「小酒井 望賞」は、研究奨励金を受賞された研究者のなかから、その後も引き続き優秀な業績を積み上げられ、臨床検査医学分野に多大な貢献をされている研究者 1 名に授与されるものであります。今年度までに 32 名の方々を顕彰させていただいております。

次に、「藤田光一郎賞」についてです。「藤田光一郎賞」は、藤田光一郎先生のご功績をたたえて設立した顕彰事業であります。藤田先生は、一時期、診療にも従事された医師で、当基金の出資元であります、富士レビオ株式会社、ならびに株式会社エスアールエルの代表取締役社長を長年務められて両社の創設・発展に大きく貢献され、かつ、臨床検査医学に深い理解をもって、当基金の設立を強力に支援していただいた先生であります。「藤田光一郎賞」は臨床検査医学領域において、さらには臨床検査室の管理運営等においても顕著な功績をあげられたのち、定年退職された臨床検査の専門家を、毎年 1 名顕彰するものであります。現在までに 19 名の臨床検査領域の専門家を顕彰させていただいております。

続きまして、今年度の研究奨励金受賞者ならびに「小酒井望賞」、「藤田光一郎賞」の受賞者の選考経過をご説明いたします。

研究奨励金につきましては、今年度は全国から 55 件の応募がありました。その中から、運営委員による第一次審査に合格した 23 件につきまして、杏林大学大西宏明教授を選考委員長とする 12 名の選考委員からなる選考委員会に、公平かつ厳正な審査をお願いいたしました。無記名投票によって投票数の多い順に 10 名の代表研究者が選定され、運営委員会に答申されました。運営委員会では、選考委員会の答申内容を最大限に尊重し、さらに予算等を考慮して、最終的に藤田医科大学医療科学部准教授の星正人さま以下 7 名の方に奨励金を授与させていただくこととし、研究奨励金総額 500 万円を研究内容により助成金額を決定いたしました。

最近の傾向といたしまして、臨床検査関連の医師に加えて、臨床検査技師の方々の応募・受賞が目立つようになってきたことを実感しております。今回の選考でも、受賞者 7 名のうち 4 名が、臨床検査技師の皆さんであります。今後とも、引き続き、多くの方が本基金に応募して下さり、助成を受けて優れた研究されることを期待しております。また、臨床検査室で活躍する医師の応募も多く、今後は益々多くの臨床検査専門医が臨床検査部に所属して、臨床検査の関連研究に従事され、受賞されることを期待しております。

続きまして「小酒井望賞」です。選考にあたりましては、昭和 56（1981）年度～平成 30（2018）年度に研究奨励金を受賞し、かつ研究成果報告書を本基金に提出した有資格者 205 名を対象に、運営委員の無記名投票により選出されました上位 2 名について、最近の研究業績を検索するとともに、研究奨励金受賞後も一貫して臨床検査医学の分野で貢献されていることも考慮に入れて最終選考をいたしました。業績の中から代表的な論文 10 編ずつを運営委員が慎重に審査し、無記名投票により最上位の方を受賞者と決定いたしました。

今年度は、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学分野教授柳原克紀先生に授与させていただくことになりました。柳原先生のご略歴を申し上げます。柳原先生は1991年長崎大学医学部を卒業され、長崎大学内科学の大学院を修了された後、米国ネブラスカ大学の研究員として2年間留学されました。1999年に長崎大学医学部第二内科助手として復職され、2006年には長崎大学病院検査部講師次いで准教授に昇任され、2013年には病態解析・診断学分野の教授に昇任されました。現在は副医学部長も兼任されております。

研究テーマは感染症学、特に呼吸器感染症であり、臨床微生物検査のトップリーダーの1人としてご活躍中です。

平成21年度に「One-Step Multi-Genotyping法による市中感染型MRSAの迅速診断法」のタイトルで研究奨励金を受賞された後も微生物検査領域で精力的に活動されております。特に近年社会問題になっています薬剤耐性菌に関して広範な研究を進め、世界的なリーダーとして認識されています。また、新型コロナウイルス感染症に関しては、「COVID-19 定量的スクリーニング(抗原・抗体検査)検査法の基盤開発」の研究代表者として、優れた検査法の開発研究に取り組んでおられ、その成果は学会や講演会で発表されております。日本臨床検査医学会では現在副理事長として大谷理事長の補佐として学会の発展、認知に大いに貢献されています。これらの業績・功績に対して賞状、小酒井望先生のレリーフを飾った楯、副賞 50 万円を差し上げることといたします。

次に「藤田光一郎賞」です。平成 18（2006）年度からは候補者を公募して、運営委員会で慎重に審査して本賞の趣旨に合致する受賞者を決定して参りました。その結果、今年度は、北海道大学名誉教授松野一彦さまに、「藤田光一郎賞」を授与させていただくことになりました。

松野先生は、昭和47（1972）年に北海道大学医学部を卒業後、聖路加国際病院内科、昭和大学藤が丘病院血液内科で研鑽を積まれ、昭和58（1983）年に北海道大学検査部講師、助教授、続いて北海道大学医療技術短期大学部、検査技術科学専攻教授、学科長を歴任され、2007年に北海道大学病院検査・輸血部長、2011年北海道大学を退職後、名誉教授を推戴されました。

松野先生は寺田秀夫先生の愛弟子であり、聖路加国際病院、昭和大学藤が丘

病院とご一緒に歩まれ、血液内科・血液検査の研鑽を積まれました。特に血小板機能検査の分野において、血小板内イオン濃度測定法、血小板活性化マーカー、血小板CD36の測定などについて重要な研究業績を挙げられました。昭和61年度に「血小板内カルシウム動態測定の臨床応用」で本基金の研究奨励賞を受賞されています。

2000年の日本検査血液学会の立ち上げに尽力され、2008年から2012年には理事長を務められました。また、2009年には日本臨床検査医学会の学術集会を会長として開催されました。先生は、臨床検査技師の育成にも積極的に取り組み、学生に対する実践的な指導を行うとともに、臨床現場での研修機会を提供されました。先生の教育により、多くの優秀な臨床検査技師が育成され、地域医療の発展に尽くしておられます。以上のような「検査血液学領域の発展と北海道地域の臨床検査技師育成の功績」を評価して、藤田光一郎賞を授与することとなりました。松野先生には、表彰状、藤田光一郎先生のレリーフを飾った楯、副賞50万円を授与させていただきます。

改めまして、本日受賞されました皆様方にお祝いを申し上げますとともに、今後、本事業がより一層発展し、多くの優秀な研究者の育成と、臨床検査医学の発展に貢献できるよう、私ども一同、さらに努力を重ねてまいる所存であります。今後とも関係各位のご支援とご協力をお願いして、運営委員長の挨拶とさせていただきます。